

R 元. 7. 20 一色小学校意見交換会

出席者 33 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・竹本教育総務班長・永井指導主事・
寺口指導班長（書記）

1. 開会

10:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学院の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

4. 意見交換

論点①「教育内容とスケジュール」

越地地区住民：1 番目は、小中一貫教育はすばらしいと伺ったが、なぜもっと早くやらないのでしょうか。一部の中学校では昨年度は雨もりもしているということです。スケジュールを早めるという考えはないのでしょうか。2 番目は、中高の一貫制の良さもあると思います。小中一貫と中高一貫のどちらを選ぶかということも、保護者の間では問題視されています。中学校は別の所に行ってしまうという子どもが増加するのではないかと考えているので、小学校の 6 年間は重要度を増してくると思っています。3 番目は、来年度から始まる新学習指導要領の事です。英語とパソコンのプログラミングが必修となってきます。これを二宮町ではどういう位置づけにするのでしょうか。広報に載っている、「社会に開かれた教育課程」を重視するというのはどういう意味なのでしょうか。なぜ教育を社会と共有しなければいけないのでしょうか。教育は一人ひとりの子どもの資質・能力を伸ばして育てることで、資質・能力が違うのに、社会と共有するのは別の問題なのではないのでしょうか。英語とプログラミングは全員の児童生徒が出来なければいけないのでしょうか。出来ない子は駄目な子どもではないと思います。別な能力を見つけて伸ばしていけばよいだけのことです。公立学校はこれを無視できないので、

全国の教育委員会と学校は板挟みになっていると思います。このようなことから、教育格差が出てくると思います。私立学校と公立学校の格差が顕著になってくると思います。また、自治体の規模の格差も顕著になると思います。予算、必要な人材、教材の格差、小さいところは十分ではないと思います。このようなことを踏まえて、3つの問題に対してお答えいただければと思います。

教育長：神奈川県では、平塚の大原の中高一貫校と相模原の中高一貫があります。しかし、今は県では県立高校の改革が行われています。高校の段階から子どもたちのニーズにあった高校を作ろうとしています。中高一貫校は今2校で止まっている状況で、小中一貫を進めることは問題ないと考えています。プログラミング教育はどうするのかということですが、二宮町でも新しい学習指導要領に基づいた環境を整えようとしているところです。

部長：なぜもっと早くやらないのかということですが、このスケジュールはあくまでも目安です。これから調査を行うので、このスケジュールはあくまでも予定で、早くなったり遅くなったり、変わることもあります。既存の建物を有効に活用していきたいが、きちんと調査・整備を行う必要もあります。また、教育課程や体制づくりにも時間をいただきたいと思います。今回お示ししたスケジュールは案ですので、これから変わることもあるということをご承知おきいただければと思います。

教育委員：大原学院は10年かけて行っています。色々調査研究が必要です。また、教員の意識改革も必要です。日々の教師の努力がないと実現できません。教育内容の精査も必要だと思います。小中一貫、中高一貫の連携またそれ以前の連携も必要だと考えています。二宮町でも小中一貫だけでなく、幼稚園・保育園との連携も必要で、小学校1年生のとまどい感というのも大きいです。小学校になかなかなじめない子もいます。それが、小学生の不登校につながっていると思っています。今も幼保小の連携は行っているのですが、これからもっと進めていく必要があると思います。

教育長：県立高校は今年から、全ての高校でコミュニティ・スクールを行っています。また、二宮高校においては、指定を受けてインクルーシブ教育についても行っています。全県から生徒が集まってくるのに、コミュニティ・スクールというのはどういうことか聞いたところ、どこの地域にいても地域を大事にして、学校の周りの地域とかかわっていくということでした。インク

ルーシブについては、小学校、中学校の取り組みを高校にもつなげていけるような仕組みを考えています。

百合が丘地区住民：全体のスケジュールを具体的に教えてほしいです何年ぐら
いなどの全体的な流れがわかりません。共働きなので、学童保育も心配で
す。

課長：スケジュールについてですが、今年度中に意見がまとまった場合、調査に
ついては令和 2・3 年、設計に令和 4、5 年、令和 6、7 年で工事、令和 8 年
に二宮西中学校と一色小学校が統合すると考えています。山西小学校が入
れるようになるのが、令和 12 年ぐらいです。施設の調査と設計工事にどの
くらいかかるのかがまだ分からない状況です。施設の各学校の老朽化の調
査もしっかり行い、小学校と中学校の施設の違いに対する工事も行います。
調査次第で期間は変わると考えています。

緑が丘地区住民：緑が丘は一色小学校に通わせていますが、一色小学校の単級化
が今の計画だと令和 12 年まで続くということです。単級化にはメリット・
デメリットがあります。学区を変えたらどうでしょうか。一色小学校の単級
化解消するために、学区を変えるという選択肢はないのでしょうか。

教育長：地区を変えてしまうと、今まで子どもたちが培ってきた人間関係が変わ
ってしまうことが心配されます。二宮町ではコミュニティ・スクールを行っ
ています。子どもたちが安心安全に地域の中で過ごして欲しいと思っています。
子どもと地域の方の顔が繋がって欲しいです。在宅有識者にもっと学
校に行っていただきたいと考えています。開かれた学校教育というのをはじ
めている所です。二宮小学校では地引網をしたり、山西小学校では玉ねぎの
収穫を一緒に行っています。町全体で子どもたちを育てるために、学区の子
どもたちを地域で育てるための活動を行っている所です。今行っている地域
のコミュニティの活動を行っているので、もし、移るのだとしたら、一色小
学校の地域の子どもが皆で移るという事をしたいと考えています。数を合わ
せるためだけに地域を分断したくないということです。

中里地区住民：基本的には小中一貫に反対です。やるならじっくり時間をかけて
ゆっくり行って欲しいです。いくら時間をかけても構わないと思っています。
マイナスの部分、課題の部分に十分対応できるだけの検討を行って、それか
ら実施して欲しい。一番いいのは、小学校と中学校が同じ場所に共存して行

うというのがいいと考えています。小中一貫にしようとしばりが出てしまうので、一人ひとりの子どもの自由にすべてのことが出来るように考えて欲しいです。

課長：この会で終わりではなくて、また 2 回目以降も検討していきたいと思っています。

論点②「学校の場所と施設」、論点③「学区・地域」

中里地区住民：資料が事前に欲しかったです。意見交換会の時間が足りないと思いますので、その後の意見交換会はあるのでしょうか。一色小学校と二宮中学校を選ぶということですが、一色小学校は耐震工事をしてから 20 年、建ってから 50 年たっている。なぜ古くなっている一色小学校を選ぶのでしょうか。

部長：意見交換会は継続的に行いたいと考えています。形をこのようにするかどうかはわかりませんが、深い議論を重ねていくのは重要だと考えているので、今回の会を踏まえてまた考えさせていただきます。一色小学校をどうして選ぶのかということですが、二宮町全体のバランスを考えて選択しました。施設の老朽化具合を考えなければいけないとは思っています。山西小学校に比べると、耐震工事を行ってからの年数は一色小学校の方が立っていないです。また、グラウンドが他の学校に比べて広いです。中学校と一緒にした場合、そこも重要なことだと思います。北と南の全体を見て、二宮町のバランスを考えた場合、重なる部分が少ないという事は、バランスが良く、一色小学校にすると通学の距離が長くないようにすることが出来るということで、提案させていただきました。

富士見が丘地区住民：新聞報道などを見ると、今年度中に計画をまとめるという事が、町の計画だと思うのですが、どういうスケジュールで計画策定を行うのでしょうか。意見交換は行ったが、いつ誰が計画を決めたのかがはっきりしないと地域の方たちもとまどうと思います。

部長：計画案は町ではなくて、教育委員会が案を策定したものです。教育長をトップとして、教育委員とで毎年行う教育委員会議で案をまとめました。

教育長：教育委員会として、今年度中に案をまとめますが、今日は皆さんの意見を聞きたいと思い、このような会を開催させていただきました。例えば、学

区についても私たち教育委員会としてお示しした案に、承認していただければ、このままでもいいですし、物理的には違う学区にした方がいいという提案があれば、教えていただきたいと思います。

百合が丘地区住民：この計画の対象となるのは未就学児だと思います。小中学校に通っている子どもがいればいいですが、未就学児がいるご家庭にお知らせすべきだと思います。幼保小の連携はどうなっているのかということに不安に思っている保護者は多いと思います。未就学児を持つ保護者に対する連携はどうなっているのかを教えてください。

課長：子育て・健康課にチラシを置いたり、広報掲示板に貼ったり、保健センターなどにも慌てて貼ったりしたのですが、周知が足りなかったと思います。意見交換会はこれで終わりではないので、次からはもっと周知の方法を考えていきたいと思っています。

百合が丘地区住民：保育園や幼稚園にお知らせを配るべきではないでしょうか。

部長：配ることは可能なので、これからお知らせの仕方等も含めて検討していきます。

百合が丘地区住民：中学生の足で西中に40分かけて通っていました。山西小学校の子が一色小学校まで通うということですが、重いランドセルを背負って、一色小学校まで歩いて通うということを想定しているのでしょうか。実際に通学が可能か、子どもの意見は聞いているのでしょうか。

部長：これから、通学については色々と検討していかなければいけないと考えています。茶屋や越地の方は通う方法を考えなければいけないと思っています。学区の見直しも考えなければいけないということは認識しています。子どもの意見も大切なことだと思いますので、学校を通して聞いていきたいと思っています。

一色小学校地区住民：一番気になっているのは、放課後のグラウンドの使用の仕方です。中学生が部活をすると、小学生を遊ばせるのは怖いです。今、一番安心して子どもを遊ばせることができるのは、学校です。今の時点でアイデアがあるのでしょうか。大原学院は、規模が小さい学校の話だと思います。小中一貫教育を行う上で、一番効果がある規模感はどのくらいなのでしょう。

教育長：校庭の使用の割り当てを小学校と中学校で考えなければいけないと考えています。部活動については、今二宮町で部活動のガイドラインをつくっている所です。また、小学校の高学年でも参加できるようなものも考えています。

教育委員：文部科学省調査には小中一貫教育校の規模とメリットとの相関関係は書かれていません。あまり大規模だと小中一貫を行うことは難しいようです。二宮町では今 1～3 クラスなので、小中一貫教育を行うことのメリットはあると思っています。

その他全体的な質問

百合が丘地区住民：小中一貫校はいいと思うが、学区が気になります。区切りよく 1 年生にあがる時から学区を変えることは出来ないのでしょうか。途中で別れるとかわいそうなので、少しでも子どもたちの負担をなくす方法を考えてほしいと思います。路線バスやスクールバスを使うとしたら、町から補助があるのでしょうか。やはり、子どもの負担を軽減するためにもなるべく歩ける距離がいいかと思います。

越地地区住民：今日の説明に、予算の話が一切ないです。新庁舎は 20 億かかると言っています。二宮町はどれだけ借金するのでしょうか。庁舎か学校かどちらかしか出来ないのではないのでしょうか。庁舎と一緒に議論しなければいけないのではないのでしょうか。